

社会福祉法人

2016年8月号

葦の家福祉会だより

梅雨、真ただ中のある夜のこと。我が家の4メートルほどの高さのクロガネモチが、ベランダから漏れ出た光りできらきら光っていました。「今夜から明日にかけて集中豪雨のおそれあり」とテレビの声。「入道雲が恋しいな」私はため息をつきました。見ると、その枝に何か異様なものがくっついているではありませんか？ちょうどブルーチーズのようなもの。

「さては、蛾か？」近寄ってみると、それは生き物であることが分かりました。何とそれは脱皮中の蟬（せみ）。青白い体に目は緑、羽根も緑。小さくて弱そうな生き物の姿は、夏の日差しの中で、甲高い声でエネルギーに鳴き続ける蟬の姿とは違ったものでした。数日後、私はあることに気がつきました。蟬は、雨の中、土中から這い出して数メートルも木をよじ登る強い生命力を持っていたのです。

さて、今年度の「わはは祭り」は10月9日（日）に開催されますが、今年度のテーマは本年4月に開所した「えーる油山」（堤地区）を意識した企画になります。これからの実行委員会で詳細を詰めて参ります。懸案のグループホームの建設は木造案で本決まりになりました。東京オリンピック、熊本地震の影響で建築資材は高騰しており、心配な点が浮上しています。仲間、ご家族の皆さんのご意見をヒントに難問を解決して参ります。

つぎに、本年度の決算についても触れておきます。事業費や人件費は予想の範囲内に収まっています。最近、リニューアルされた当法人のホームページ上で、決算書類や人材育成、人材募集などが公開されています。そちらをご覧くださいませ。つぎに、社会福祉法人改革について触れます。社会福祉法人にも地域貢献や透明性の確保が求められる時代に入りました。改革はまだ始まったばかりですが、これから役員会の役割に変化が生じます。評議員会は議決機関、理事会は執行機関という役割分担です。

最後に訃報があります。7月1日、当会理事の樋口四郎氏が逝かれました。享年74歳。氏は当法人と堤地区をつないでくださった貴重な方でした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



社会福祉法人 葦の家福祉会
理事長 福山良弘

平成 27 年度葦の家福祉事業報告

1. 第 3 次中期計画事業開始年度として、初年度整備事業に着手・実行した。
 - (1) 多機能型通所施設、えーる油山を整備した。(平成 28 年 4 月開所)
 - (2) 福祉有償運送事業の準備作業に着手した。(運転者講習の受講等)
 - (3) グループホーム 2 号館、放課後等デイサービスの開設は見送った。
2. 中期計画関連事業及び各事業遂行に必要な経営基盤を担保しうる組織強化を図った。
 - (1) 本部機能を再編し、経理・財務、諸規程、労務、広報、庶務等の整備に着手した。
 - (2) 事務員を確保し、拠点単位の会計・経理体制を稼働させ、拠点間の連携を強めた。
 - (3) 前大石理事長のご逝去に伴い、福山新理事長を選任するとともに、9 月に役員を改選し、理事会、評議員会の機能を強化した。
3. 法人各事業を担う人材の定着、確保、育成を行った。
 - (1) 今後の人材確保を行うために、効果的な広報策を協議し採用活動に取り組んだ。
 - (2) 支援、労務両面で働きやすい環境整備のための各種研修を企画・実施した。
 - (3) 社会保険労務士の助言のもと、子育て支援についての体制を整備した。
4. 事業所開設 30 周年記念事業実行委員会で企画検討し、記念事業を行った。
5. 地域に共生社会の理念を反映する交流、貢献的活動に取り組んだ。
 - (1) 堤地区における各種地域活動に準備段階から参加し、地域との交流を図った。
 - (2) 広報物を定期刊行し地域への広報活動を行うとともに、わはは祭り、地域アルミ缶回収等の地域参加企画を実施し、ボランティアの受け入れを行った。
6. 福岡市と連携し、福祉避難所設置マニュアルの検討会開催を要請し、マニュアル作成作業に参加した。
7. 障がい者権利条約の水準の新たな障がい概念、理念を学習するとともに、差別禁止、65 歳介護保険移行問題等の当事者運動等を行った。
8. 法人及び各事業の事業、実践等をHP、広報誌、実践報告誌等で行政、地域、ボランティア、関係者、求職者等に広く広報した。

※ 報告の詳細や各事業についての事業報告はホームページ上で公開しています。また書面による閲覧を希望される方は法人本部事務所に閲覧用ファイルを用意しています。



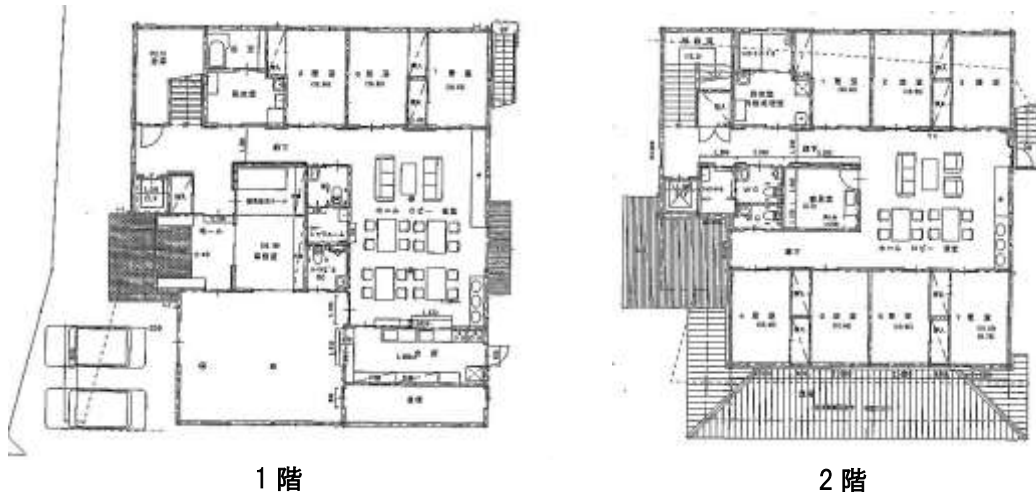
第2グループホーム開設に向けて

平成27年度中に、地域に独立型のホームとして開所を予定していた第2ホームですが、民間基金の助成金選考に漏れ、再度の補正、事業計画を練り直し、秋口に着工、29年度に開所する予定で準備を進めています。前理事長時代からの悲願である“障がいの重い人も地域の街中で暮らせる場を”。“地域の方々と交流できるホームを”。この2つのテーマを持ったホームです。利用者もすでに内定しており、利用者、家族、職員、ボランティアで結成している「グループホームを作る会」で、設計プランの原案作成や運営の学習などを3年間で20回開催して詰めてきました。借入金も含め全額自己資金かつ震災復興需要等で高騰する資金の調達、職員の確保・育成など多くの課題もありますが、実現に向け努力しています。皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

《ホームの概要》

- 事業の目的;地域交流、保護者会活動等のスペースを併設した地域交流型ホーム
 - ① 障がいのある人もない人も、共に地域社会で暮らす共生社会の理念により、障がいが高く親がいない方や行動障がい等で家庭で支援が難しい方々に、小規模な地域生活住居を提供する。
 - ② 地域交流スペースで高齢者やボランティア等に食事やレクリエーション等により孤立しがちなホームと地域との交流を深め、地域や関係者のネットワークによりホームのセーフティネットを形成する。
- 利用者:知的障がい者定員10名(支援区分6:7名、同5:2名、同3:1名)
- 建築予定地;城南区樋井川(敷地は50年定期借地権契約による賃借)
- 構造;木造2階建て(準耐火構造)床面積431㎡
- 事業費;建築工事費、事務費等94,000,000円

第2グループホーム平面図



訃報

当法人の理事、樋口四郎様が去る7月1日にご逝去されました。

民生委員児童委員、地域の役職などご多忙な中、よく葦の家の行事に足を運ばれ、仲間たちの写真を撮り、プレゼントをしていただきました。職員もカラオケや野球観戦などにご一緒させていただき、悩みを聞いていただく等、まさに地域と法人の懸け橋となっていただきました。

生前のご厚意に感謝するとともに、心より哀悼の意を表します。

「えーる油山」開所から4カ月を迎えた今！

「えーる油山」は、知的な発達に課題を持った仲間たちが通所する施設として、平成28年4月1日(金)に開所をいたしました。それから4カ月が過ぎた今、えーる油山では、生活介護13名(定員20名)、就労継続支援B型3名(定員10名)、合計16名の仲間たちが送迎車による通所生活を送られています。施設では、創作活動(絵画、フェルト加工、さをり織等)や農作物(なすび、トマト、インゲン豆、ズッキーニ、しし唐)づくりに取り組んでいます。



今後は、授産品の新商品開発とバザー出店先の拡大等による販売強化を行ない、仲間の工賃アップ(現在の工賃、生活介護1,000円、就労継続支援B型3,500円)に取り組むたいと考えております。また、地域との連携による仕事づくり(授産品及び農作物づくりと販売力を身に付けること)と地域行事への積極的参加を促し、障がいがあっても「地域で普通の暮らしを」めざして事業を推進する所存です。

ご支援して下さる皆様方のご理解とご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

福岡市城南区東油山1丁目6-39
多機能型障がい福祉サービス事業所
「えーる油山」管理者 小関正利

わはは祭り 2016



(堤)

地域をつつみ「えーる」を贈ろう



今年は東油山に「えーる油山」が開所しました。これを機に、堤地区南部の方々にもあらためて葦の家福祉会のことを知っていただき、広く地域の皆様と交流し、支援の輪を広げていけるように楽しいお祭りを開催したいと思います。

10月9日(日) 10:30~15:00(予定)

福岡市立 長尾中学校

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会
〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17
<法人本部> Tel 092(873)7481 Fax 092(834)3362
H.P. <http://www.ashi.sakura.ne.jp>